

平成23年度 群馬県立文書館ミニ企画展

# 西上州の山村に生きた人々

～ 旧鬼石町譲原山田松雄家文書の世界～



譲原村山畑・家並等絵図 (P8217-1732-2)



きりしたん邪宗門制禁高札 (P8217-2221-2)

群馬県立文書館では、『収蔵文書目録29集 多野郡鬼石町譲原 山田松雄家文書』をこの度発刊いたしました。

これを機に、山田家の古文書と写真パネルを通じて、西上州山村の暮らしを御紹介します。今では「限界集落」「過疎」などマイナスイメージの強い山村ですが、かつての豊かな自然の恵みを活かした先人たちの営みを振り返ります。

平成23年 7月5日(火)～9月29日(土)

開館時間 9:00～17:00  
休館日 月曜日、祝日、月末日  
入場無料

群馬県立文書館

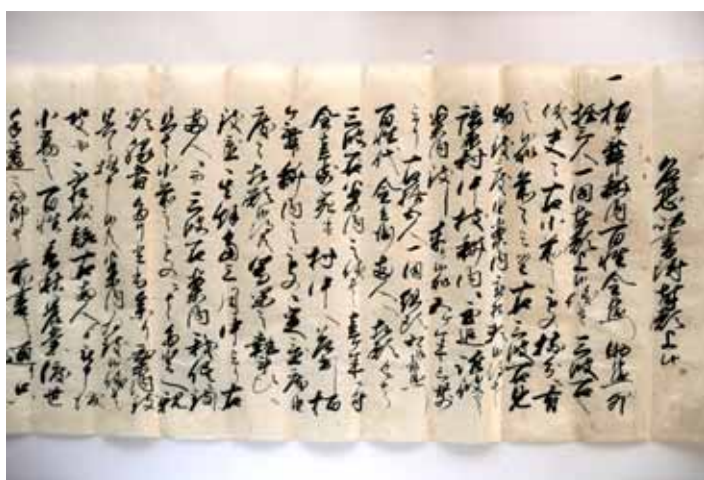
〒371-0801 前橋市文京町3丁目27-26  
TEL:027-221-2346 Fax:027-221-1628  
URL <http://www.archives.pref.gunma.jp>

【展示構成】  
甘楽郡讓原村



神流川左岸に位置する讓原村は、南・東は武蔵国児玉郡に接し、北は緑野郡鬼石村、西は同郡三波川村・甘楽郡保美濃山村に接する山間の集落でした。十石街道が村を通り、神流川上流の山中領（現在の上野村・神流町）、さらに信濃国に通じていました。

讓原の地名は戦国時代から見られますが、村の様子が具体的にわかるようになるのは江戸時代になってからです。江戸時代を通じて幕府直轄領で、幕府代官の支配下にありました。村高は「寛文郷帳」で畑方202石余、「元禄郷帳」では枝村とあわせ275石余でした。



三波石案内をめぐる争い (P8217-1416)

「上毛かるた」にも詠まれた三波石は、すでに江戸時代から有名で、江戸後期には観光スポットになっていました。このため三波石の案内役をめぐる争いが起きています。

この史料には、三波石のある栢ヶ舞耕地の小前らが以前から案内役をしていたところ、組頭五郎右衛門らが案内役を独占しようとしたため困窮している旨が訴えられています。

山村のくらし

『上野国郡村誌』に「西北八山林ヲ負ヒ東南川流ニ臨ミ、山中ノ谷口ニ村シテ市邑密邇ス」とあるように、讓原村のほとんどは山地で、家々は谷口に密集していました。すべて畑方で、ほとんど米のとれない山村でした。天明9年(1789)の「村明細帳」によれば、男は農業専一といいながら冬春に薪等の売買を行い、女は夏に蚕・絹稼ぎ、冬春に布織りを行っていました。また、「農間渡世書上」などの文書から、林業・漆取りなど山林資源を活かした様々な生業の営まれていたことがうかがえます。

現在の山村は「限界集落」「過疎」の言葉が代表するように、マイナスのイメージが強まっています。しかし江戸時代の山村は、平地の稲作中心の村にくらべ多様な生業が営まれ、商品経済と密接に結びついていました。



三波川他一八ヶ村の漆上納額 (P8217-1663)





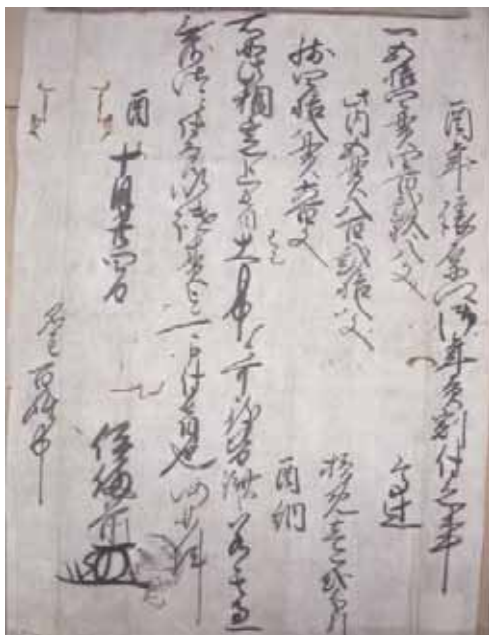
下野国足尾より材木伐出請負(P8217-1686-1)

### 満福寺・隠れ切支丹

山田家の菩提寺満福寺は、南北朝時代に開創されたとされる時宗の寺院です。江戸時代は朱印3石を受けていました。山田家文書の中に「満福寺抱」「満福寺門前百姓」などの記載が多数見え、譲原村の人々に大きな影響力を持っていました。

興味深いのは、寺宝として南蛮絵の「泰西王侯図」二幅（国重要文化財 群馬県立歴史博物館寄託）が伝わっていることです。桃山時代に描かれたものですが、作者は不明です。また、南蛮絵の技法で描かれた「達磨図」もあり（県重要文化財）、これらが伝来した理由は明らかではありません。注目されるのは、江戸時代初めの鬼石周辺がキリシタンの潜伏拠点であったことです。明暦2年（1656）までに14、5人の信者が摘発され、その中に三波川村百姓木村利兵衛がいました。

### 小特集：近世譲原村の成立



伊奈忠次最後の年貢割付（P8217-2092）

山村の住民にとって、幕府の御用林以外の山林は重要な生活資源で、「山稼ぎ」の場でした。具体的には、株刈り・薪取り・炭焼のほか、材木の伐採・加工、木製品の製作などが行われていました。文政10年(1827)の「甘楽郡譲原村農間渡世書上」によれば（P8217-142）、譲原村では、「屋根板批渡世」「木挽き渡世」「材木売買」「屋根板売」「大工渡世」など様々な林業に関わる人達が出たことがうかがえます。

この史料では、譲原村の要蔵が下野国足尾の材木伐採で「日雇三拾人組」の半組・頭役を任せられ前金を預かったとあります。おそらく要蔵は木挽きの頭と考えられ、他国の材木伐採を請け負うほどの力量があったことがうかがえます。



年貢割付状とは、領主から村への年貢の請求書で、その年の10～11月に出されました。この割付状にはまず高辻（村高）54貫428文が記載され、そこから5貫828文が免除され、残りの48貫600文が年貢高とされ、11月中に皆済するよう命じられています。

幕府代官頭の伊奈備前守忠次は、慶長3年（1598）譲原郷（村）で検地を行い、翌年最初の割付状を出しています。以後、慶長14年の史料——まで全7通の割付状が山田家文書に残されています（忠次は慶長15年死去）。これらは忠次発給文書を研究する上で重要な史料です。

平成23年度 ミニ企画展 「西上州の山村に生きた人々」出品リスト

NO	レプリカ史料名	年月日	文書番号
1	甘楽郡譲原村明細帳	天明9年3月	P8217-784
2	三波石案内役をめぐる訴え	文政4年4月	P8217-1416
3	鬼石村漆正納・金納の由来書上	年不詳	P8217-1484
4	煙草仕入金返済滞り訴詔	享和3年	P8217-1923
5	足尾での材木伐採請負	天保6年3月	P8217-1686-1
6	野火付け取締りと焼畑耕作	弘化2年3月	P8217-1590
7	遊行上人五拾七代巡行の先触	嘉永3年6月	P8217-31-6
8	切支丹探索一件請證文	寛文11年3月	P8217-1622
9	キリシタン類族の存仙、譲原村医光寺住持になる	享保10年正月	P8214-10355
10	緑野郡譲原郷坪入帳	文禄3年3月16日	P8217-274
11	伊奈忠次最後の譲原郷年貢割付状	(慶長14年)酉年10月24日	P8217-2092
12	譲原村最初の年貢請取状	寛永16年12月29日	P8217-1643
13	譲原村年貢の由来書上	天保14年9月	P8217-1789
14	甘楽郡譲原村宗門改帳	享保10年3月	P8217-335

NO	写真等のパネル名	年月日	文書番号
1	山田松雄家文書について		
2	譲原村山畑・家並等絵図	年不詳	P8217-1732-2
3	譲原村の遠望写真		
4	鎮守子宝神社		
5	三波石の風景写真		
6	文政一〇年の譲原村農間渡世の表		
7	三波川他一八ヶ村の漆上納額	明和2年4月	P8217-1663
8	櫨植付場所・苗木数・絵図面の届	安政6年9月	P8217-270
9	櫨植付場所の絵図	(安政6年9月)	P8217-272
10	「櫨のゑき」	年不詳	P8217-267
11	四季打鉄炮案文	宝暦9年11月	P8217-791
12	満福寺		
13	三波川の谷を望む		
14	吉利支丹類族存命帳死失帳	元禄12年6月	P8214-2431
15	木村利兵衛関係略系図		
16	火付け取締り高札	正徳元年5月	P8217-2221-1
17	正徳元年切支丹禁制高札写	宝暦5年4月	P8217-1801
18	きりしたん邪宗門制禁高札	慶応4年3月	P8217-2221-2

\*史料保存の関係から展示物はすべて複製物としております。実物は閲覧室でご覧いただけます。